

一般社団法人 M-EMS 認証機構
令和 5 年度 社員総会議案

日時：令和 5 年 6 月 1 5 日（木） 1 0 : 0 0 ~

場所：勤労者福祉会館 2 階第 2 会議室

総会議題

1. 開会

2. 代表理事挨拶（代理）

坂口 佑爾 理事

3. 会長挨拶 経営委員長 三重大学客員教授

朴 恵淑 会長

4. 来賓紹介

5. 来賓挨拶 三重県環境生活部環境共生局

枡屋 典子 局長

地球温暖化対策課 窪田 哲也 課長

6. 議長選任

7. 定足数確認

8. 議事

◇ 第 1 号議案 : 令和 4 年度事業報告 資料— 1

◇ 第 2 号議案 : 令和 4 年度決算報告 資料— 2

◇ 第 3 号議案 : 令和 4 年度監査報告 資料— 3

<第 1 号~第 3 号議案 質疑応答・採決>

◇ 第 4 号議案 : 役員選任の件 資料— 4

◇ 第 5 号議案 : 役員報酬の件 資料— 5

<第 4 号~第 5 号議案 質疑応答・採決>

◇ 第 6 号議案 : 令和 5 年度事業計画（案） 資料— 6

◇ 第 7 号議案 : 令和 5 年度事業予算（案） 資料— 7

<第 6 号~第 7 号議案 質疑応答・採決>

◇ その他

9. 議長解任

1 0. 閉会

1. 概要

令和4年度の新型コロナウイルスの感染状況は8月に大きな山を迎え、10月に一旦収まりを見せながら、年末から年明けにかけて若干下がったものの大きな山が襲ってきました。しかし、弱毒化傾向の変異株や集団免疫の獲得などから年度末にかけ急激な低下を見て、結果として日本政府も令和5年5月8日から感染症分類を5類へ変更することを決定しました。

また、令和4年2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、早期終結も予想されておりましたが、今もなお終結を迎えるに至っていない状況です。

これらのことから、経済・産業上ではエネルギーコストの高騰、半導体をはじめ鋼材、木材などの入手難、物価、人件費の上昇など大きな試練に終始した一年であったと言えます。

わが M-EMS を取り巻く環境では、令和3年度に実施したステップ1の審査料金改定による辞退懸念は落ち着きましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から認証事業所様の経営的な対応から担当者工数不足による認証継続の辞退が多く発生しました。

三重県の環境行政では、活動の主力が脱炭素への対応に移行し、M-EMS 普及では環境技術指導員による電子マニフェスト勧誘活動に合わせた M-EMS パンフレット配付のみに限定的にはなりましたが、この紹介から認証に至るケースが出たことは有効な手段となりました。

また内部環境として事務業務を見直し、審査に関する書類について電子化を導入する事により効率化を図り、事務職員全員の協力によるパート化を図りました。合わせて事務用品等の購買についても“必要なものを必要な時に”と発注形態を変更するなど経費削減に心がけました。

その結果、令和4年度の収支については期初予算を上回る利益を確保できましたことは、職員、社員皆様のご理解によるご協力の賜物と深く感謝いたします。

総括として令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大阻止の観点から、年初計画した活動計画については大きく縮小を余儀なくされ、審査員の皆様にも、リモート審査での対応や、審査関連資料の電子化対応など多くのご無理をお願いしてのご対応を頂き、結果として認証継続の組織数では年初比6件マイナス（▲3.5%）になりました。

多くの経営課題が持ち越しとなりましたが、次期令和5年度は高い目標を掲げ、手堅い経営基盤の再構築を図ります。

2. 主な施策と成果

(1) 認証登録管理・運営 2023年3月31日現在

・令和4年度登録（継続）事業所

S1 = 96件 S2 = 95件 合計 = 191件

(匠技研様が S2⇒S1 移行を含む)

(前年同期 S1 = 98件 S2 = 99件 合計 = 197件)

・令和4年度新規登録事業所

S1 = 3件 S2 = 2件 合計 = 5件

2022年（令和4年）度計画 S1 : 7件 S2 : 1件 S2W : 2件 計 : 10件

(前年 S1 = 1件 S2 = 2件 合計 = 3件)

普及活動として県環境室の環境技術指導員による電子マニフェスト普及活動での事業所訪問時に M-EMS パンフレットの配付を依頼し、手渡し時に感触が良かったという組織に対し、普及員によるフォローアップを行いました。十分な件数が得られず目標未達となりました。

・令和4年度辞退事業所

S1 = 6件 S2 = 5件 合計 = 11件

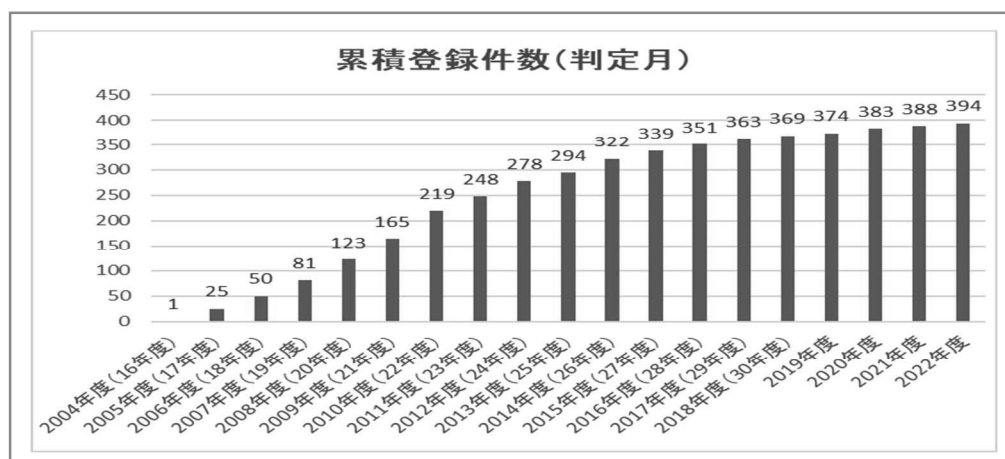
辞退事業所（令和4年度予測） S1 : 5件 S2 : 2件 S2W : 1件 計 : 8件

(前年 S1 = 8件 S2 = 7件 合計 = 15件)

主な辞退理由では、長年審査を受けて運用してきた自力での活動継続ができると判断しての辞退、コロナによる業績低下などにより人員整理等で M-EMS の維持のための担当者振り当てが出来なくなったためでした。

その他数社から、目標に行き詰った、目標項目についてのデータ取りが出来ない、目標達成のための活動が自社に役立っていない、などがありましたが、これらについては訪問相談に行き、目標を自社業務に合わせて SDGs を考慮しての内容にすることを提案して継続していただいた例もありました。

累計登録件数は、令和4年度末で、394件 となりました。



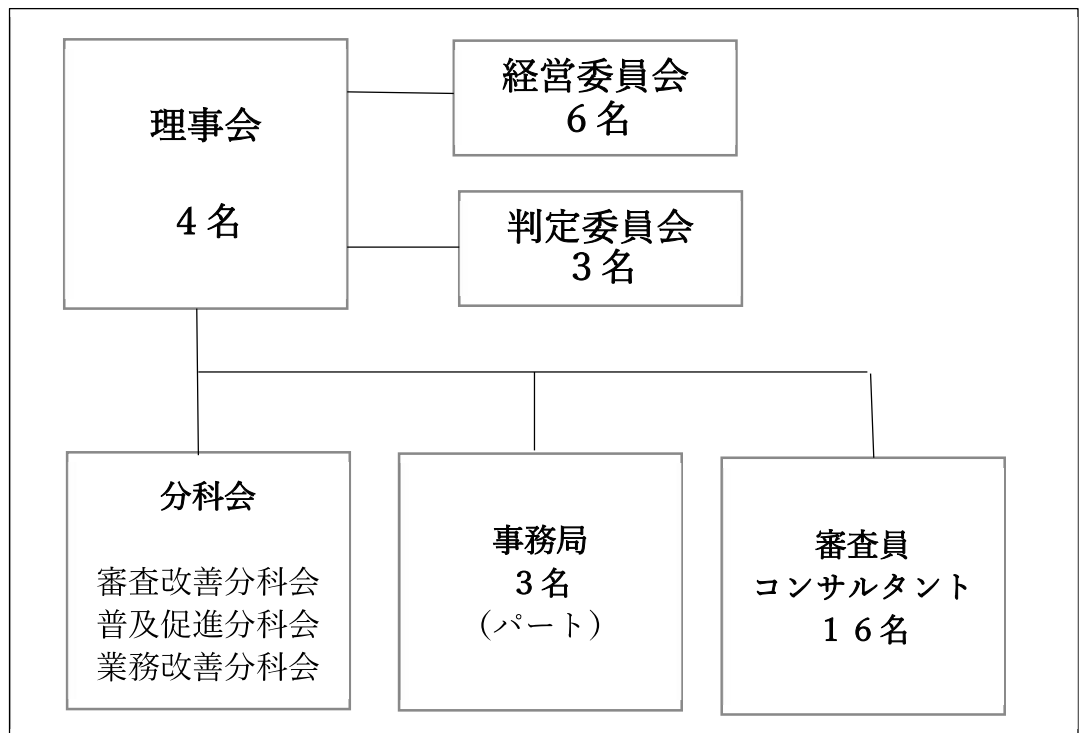
(2) 事業状況

- ① 収入面では、新規認証取得申し込みが計画より多く、構築講座、自己評価員養成講座の講座収入が 20 万円の増加、構築コンサルティング収入が 50 万円の増加、審査収入が 190 万円の増加になりました。
- ② 支出面では、事務の電子化を進め、通信費（郵送料）・荷造運送費が 25 万円の削減、駐車場賃料 10 万円削減、雑費 40 万円の削減と経費の低減を図りました。

正味財産の増減推移は下表となっています。

年度	H30	R1	R2	R3	R4
正味財産増減 (単位：千円)	1,917	894	△3,155	667	3,673

(3) 組織体制



・審査員の状況（2023年4月1日状況）

主幹審査員 14名 審査員 2名

退会者 2名 入会者 0名

稼働審査員平均年齢：74.1歳

新規入会審査員がなく、高齢化が進んでいます。ここ数年で抜本的な対策が必要です。

(4) 令和4年度事業計画に対する活動結果

No	実施事項	計画回数	実績	
			回数	内容(概要)
1	審査員維持研修会	6	6	偶数月に実施
2	審査員交流親睦会	1	0	コロナのため自粛
3	理事会	24	24	月2回実施
4	判定委員会	12	12	毎月第4水曜に実施
5	三重県担当課情報交換会	12	12	毎月1回実施
6	経営委員会	2	2	
7	一般社団法人 総会	1	1	2022年6月9日
8	構築講座	12	10	23社28名(新規11社)
9	自己評価員養成講座	6	5	8社14名
10	M-EMS 環境セミナー	1	1	2022年11月16日
11	登録事業所交流会	1	0	コロナのため自粛
12	講演会・セミナー 環境施設見学会	3	1	度会ウインドファーム見学
13	普及促進分科会	6	6	
14	事業所訪問	200		
15	審査改善分科会	6	6	
16	事務改善分科会	6	3	
17	M-EMS 倶楽部幹事会	6	6	
18	メールマガジン発行	3	0	
19	茶話会(会員交流会)開催	2	0	コロナのため自粛
20	みえ GrAN 幹事会	6	5	
21	ホームページ改善		未	GPN 復帰のため未作成
22	KES 全国協議会、審査員研修会	6	6	

・審査員維持研修会

隔月偶数月に開催しました。

主に、M-EMS 文書・書式の改訂の徹底、環境関連法令（プラスチック資源循環促進法、労安法（アーク溶接の溶接ヒューム））についての解説、判定委員会からのコメントに基づく審査対応について、などの通達を行いました。

・M-EMS 環境セミナー

11月16日に実施しました。

環境活動の10年継続組織としてステップ1対象7事業所、ステップ2対象9事

業所に対し、感謝状贈呈を行いました。

また、記念講演として多気郡多気町を中心とした6町の連携での三重広域連携による「デジタル田園都市国家構想」について、推進メンバーである株式会社オリエンタルコンサルタツの城所氏をお迎えして、“デジタル技術を活用した共助が支える新たなデジタル生活基盤のまちづくり”についてご講話いただきました。

・ 県情報交換会

三重県環境生活部地球温暖化対策課と毎月1回情報交換会を実施しました。温暖化対策課から依頼いただいた、環境技術指導員でのM-EMSパンフレット配付による紹介依頼の結果報告をいただき、M-EMS普及員によるフォローアップを行い、その状況報告を密に実施しました。その他、三重県の環境に関する活動状況や脱炭素推進に関連する行政の施策などに対し、M-EMSとして相互協力による活動のかかわりなど話し合いを行いました。

・ 環境施設見学会

11月17日に度会ウインドファーム発電所見学会を行いました。M-EMS認証機構とM-EMS環境倶楽部、三重グリーン活動ネットワーク（みえGrAN）との共催で開催しました。

・ つ・環境フェスタ、みえ環境フェアへの出展

つ・環境フェスタは11月27日（日）、みえ環境フェアは12月11日（日）に実施。新型コロナウイルスの感染防止のため、開催が中断されていた両展示会が、規模は縮小したものの3年ぶりに開催となりました。M-EMS認証機構は、M-EMS環境倶楽部、三重グリーン活動ネットワーク（みえGrAN）と共催にて出展し、活動の紹介パネルの展示および中勢森林組合様にご協力いただき、廃材を活用したコースター作りを行いました。

・ 三重県議会会派 要望聞き取り

自民党（9月2日）、新政みえ（9月9日）に対し、県行政についてM-EMS運営に対する要望事項を伝え、回答をいただきましたが結論として進展が得られず、2月13日に三重県環境生活部中野部長他との直接面談を行い、三重県として環境への今後の取り組みおよびその中のM-EMS活用の方向性をお伺いしました。

・普及促進分科会

三重県環境室環境技術指導員に協力いただき、電子マニフェスト普及のため組織訪問時に M-EMS の紹介として M-EMS パンフレットを配付頂き、その時に感触のあった事業所に対し、フォローアップとしてアプローチを行い、数社について認証取得に至りました。

・審査改善分科会

マニュアルひな型について、組織での改訂頻度を削減し、改訂に必要な労力の削減、改訂後などでのコピーボリュームの削減などを目標として、マニュアル本文内図表を別表化しました。

また、環境関連法令等の要求事項を明確かつ正確に組織に伝達し、適正な順守の実行となるよう、関連フォーマットを改訂し、改訂後に審査員・コンサルタントに提示して、組織に伝達できるよう整備しました。

・事務改善分科会

審査・コンサル時等での書類の電子化を進め、M-EMS 認証機構、顧客組織、審査員間での印刷物を廃止し、コピー用紙の削減、改訂・修正に必要な情報のやり取りの時間削減、書類の保管について工数削減、ファイル保管場所の物理的削除を行いました。

・報道関係

伊勢新聞では毎月に広告掲載、伊勢新聞・中日新聞で環境月間の特集記事掲載、伊勢新聞での M-EMS 環境セミナーの報道を行って頂き、広報活動として有効であったと考えています。これらの広報活動は次年度においても継続して実施していく計画です。

(5) M-EMS 環境倶楽部

会員数：43 事業所（新規：1 事業所、辞退：4 事業所）

会員数、幹事数の増加活動を実施しましたが、実質的に会員数減となりました。来期はその在り方について幹事会で議論する予定です。

(6) 三重 SDG s ・脱炭素推進協議会

2021年10月1日付にて M-EMS 内組織として立ち上げましたが、令和4年度は新型コロナウイルス蔓延防止などから十分な活動を行うことが出来ません

でした。そのような中でも1事業所と契約しSDGs活動推進に支援できたことは1つの成果であったと思います。

また、脱炭素では世界的に2050年までに温室効果ガス排出のゼロを目指し、日本はこの目標達成のため、2030年までに2013年度比46%削減を公約し、三重県は同じく47%削減を掲げました。

推進協議会はこの三重県行政への協力として、脱炭素を推進する事業所を支援する活動を行なっていきます。

(7) 三重グリーン活動ネットワーク（みえGrAN）

昨年度より検討を進めておりましたグリーン購入ネットワーク（GPN）への復帰について、会員の過半数の賛同を受け、幹事会にて決定し、3月17日に実施されたGPN理事会で承認されました。

7月13日に予定している総会において決議され、GPN地域ネットワークとして編入されます。